研究報告

活動からみるフットパスの意義と里山保全る

龍谷大学法学部４回生・未来の環境を考える龍谷プロジェクト代表
斎藤菜乃子

里山的な地域管理を進めていく上では、地域間のつながりということがとても重要になってくると思います。そこで、つながりの再構築を目的として、私たちみらプロは、東近江市においてフットパスに関する活動をしてきました。今回は、フットパスがもつ効果や周囲への影響について活動を通し説明します。

まず、そもそもフットパスとは、日本フットパス協会では「ありのままの風景を楽しみながら歩くことのできる小径」と定義されています。簡単に言えば、「歩くことを通して地域の活性化を目指す活動」です。その特徴としては、①地域が主役であること②地域への負担が少ないこと③参加者主体の活動であることの３点です。①は、コース作成や参加者への声掛け、ガイドや昼食の準備等、地域の方が中心となって活動を行っています。②は、今ある自然や歴史文化といった地域資源を活用し、日常の延長線上での活動であるため、地域の方の負担が少ないです。③は、参加者がガイドの話を受動的に聞くのではなく、自分から主体的に面白いものを発見したり、寄り道や回り道をしたりすることで、車で通りすぎるだけでは見ることのできない、地域の営みを感じることができます。

次に、フットパスの効果について東近江での活動という具体例を通して、説明していきます。私たちは、東近江市において、市役所や地域の方々と連携しながら2017年度から活動を開始しました。主な活動としては、「コース・マップの作成」と「イベントの開催」です。まず、「コース・マップ作成」について、私たちは市役所や地域の方々とともに、2017年度に八日市地区で、2018年度に奥永源寺地区でマップを作成しました。マップの特徴として、例えば、奥永源寺地区では、農山村地域であるため間違って道に入り込まないように詳細でありながら、地図が苦手な人でも手に取りやすいイラストを使用したデザイン性のあるマップを意識しました。また、カントリーコード等を記載し、地域の方々に配慮した内容にしています。そして、現在は、八日市マップの改訂に向け、コース作成を行っています。WSで地域の方々が地域の面白い場所をピックアップし、できるだけそれらを通るコースを作成します。地域の方は自分が教えたところが形になっているため、自分事として捉えてくれ、これが地域主体へと繋がっていきます。また、地域の方々からすると当たり前の景色は、私たちよそものからするととても面白く、そういったものの魅力に私たちの反応を通して気づいてもらうことができました。次にイベントの開催についてです。今年は、春と秋の２回イベントを行いました。まず、春は、４月20日・21日に奥永源寺地区でイベントを開催しました。もともと、毎年一部の地域で開催されていたイベントと合同でフットパスイベントも行いたいと、地域の方から提案して頂き、フットパスを行うということで奥永源寺の４地区合同で行うことができました。各集落同士の繋がりがあまりなかったのですが、よそものが入ることによって、様々なしがらみを超

えて、地域がつながるきっかけとすることができました。次に秋は、11月16日・17日に全国のフットパスやエコツーリズムに取り組む学生が集まり活動報告や意見交流を行いました。２日目には、愛東と奥永源寺、八日市で全国の学生ら約100名が地域を歩きました。全国の学生が自分たちの町にわざわざ歩きにきているということを知ってもらい、また交流することで、地域の魅力の再認識による自身の獲得とフットパスの裾野の広さの実感につながったと思います。

以上からフットパスは次のような影響を与えていると言えます。１つ目は、「地域の方が自分の地域を見つめ直すきっかけになる」ということです。フットパスを通じ、地域の魅力の発見・再認識や自主的なコースの管理を行うことに繋がるのです。２つ目は、「地域がつながるきっかけづくりになる」ということです。フットパスを通じ、地域の方々自身が地域のお話をしたり、イベントの際に集まって企画したりと、地域内外での関わりを復活もしくは増やすことができます。

このように、自身の地域を見つめ直し、地域内外の関わりを活発にさせることで、地域活性化に繋がるのではないかと考えています。これが、フットパスを行う意義であると考えます。

最後に、フットパスは里山保全の基盤をつくるものであると考えています。フットパスを行うことで、色々な関わりが生まれ、人と人、自然と人との関わりの再構築を行うとともに、地域資源として活用することで里山の評価を高めていくことができるのではないかと思います。また、地域の方々だけではなく、自分たちも地域の中に入ることによって、地域への理解を深め、ともに里山保全に向け活動していくことができると考えています。それが里山の保全管理、ひいては集落の持続性、資源の持続性の基盤になるのではないでしょうか。